

愛憎

「愛憎の果てに」等と言われますが、人間の胸中きょうちゆうは複雑怪奇ふくざつかいきでわからない部分が多くあるようです。自分自身の心さえもわからないものです。おかしい犯罪はんざいが起こりますと、心理分析ぶんせきなどを分析ぶんせきいたしますが、外的まはすな事が結果けつ的にはよくあります。犯罪件数はんざいけんすうは統計とうけい的に年々減少げんしょうしているとは申しますが、理解りかいの出来ない事件じけんが多いようです。最近さいきんは、他人と言うよりも親族間の痛ましい事件じけんが多いように思われます。浄土真宗じやうどしんしゆうの三部経さんぶきやうの一つ「仏説觀無量壽經ぶつせつかんむりやうじゆきやう」があります。お釈迦様しやくあさま在世せい当時の親と子の確執かくしつの話です。

【お釈迦様しやくあさまが住んでおられた近くにマガダ国がありました。大変栄えておりましたが、国王ビンバシャーラと后イダイケには一つの大きな悩みがありました。それは後継こうけいの王となる子供こどもがいないということでした。そのことを占い師うらなに相談しますと「近くの山に仙人せんじんが住んでいます。この仙人はあと三年で亡くなります。その後この仙人が、お二人の子供としてお生まれになりますのでその間お待ちください」と、告げられました。このことを聞きますと二人は三年も待てなくなり、家来を仙人の住む山に送り込み、殺してしまいました。仙人は恨みを持って死んでいきました。その後イダイケは、すぐに身ごもりました。王様は又占い師うらなを呼びました。

占い師うらなは「男の子が生まれましょう。しかし仙人の恨みがありますので、やがて両親ふたごに対して災いわざわいを起こします」と告げました。思い悩んだ王様夫妻ふさいは高い場所から産み落とし殺そうとしましたが、奇跡きせき的にいのちが助かり、泣きき声を聞きますと、不憫ふびんに思い育てる決心をいたしました。後継あとつぎとして、育てられた王子をアジャセと申します。年月が過ぎ青年となったアジャセは、お釈迦様の従兄弟しとこのダイバダッタに唆そされて、自身の出生ひみつの秘密を聞かされます。アジャセは激昂げききやうしクーデターを起こし父の王を幽閉ゆうへいし牢獄ろうごくへ閉じ込め、食物や水を一切与あたえないようにします。後のイダイケは、密や食物を体に塗り込め面会めんかいに行き、夫おつとに与あたえます。それを知ったアジャセは、激怒げきどし母親も牢獄ろうごくへ閉じ込めてしまいます。イダイケは嘆き悲しみ、お釈迦様に助けを求められその時に説かれたのが「觀無量壽經かんむりやうじゆきやう」です。イダイケは最初に「どうして私はこんな悲しみや苦しみを与あたえられなければならないのか」というような愚痴ぐちばかりを言います。お釈迦様は何も言わずに黙だまって聞いているばかりでした。イダイケはやがて話せば話すほど自らの愚かさおろかさに気づいていくのです。】

自分の欲望よくぼうや願い事ねがごとが叶かなっていくのが宗教しゆうきやうの役割やくわりと思っている方がたくさんおられますが、自己中心じこちゆうしん的な考え方が多くの悲劇ひげきを生み出していく原点げんてんと言うことを説かれています。

この話は関わった全ての人が、自分勝手な心を押し進めたために起こった事件じけんです。季節きせつは3月、受験じゆけん、就職しゆうしよく、転勤てんきん、異動いどう、変わり目の季節きせつでもあります。

合格祈願ごうかくきがん、昇進祈願しやうしんきがん、あちこちで欲望よくぼうをかなえてもらう場が大流行です。しかし【自分だけが良ければ】と言うことが【合格あれば不合格あり】【昇進あれば降格あり】【勝ちあれば負けあり】ということに少しの思いを馳はせられたらと思います。

この話は遠い昔のインドの話だけでなく今を生きている【私わたし】の問題として受け止めたいものです。